

.....
本会記事
.....**平成30年度秋季大会に向けて**

平成30年度秋季大会は10月29日（火）～11月1日（木）の3日間、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにおいて開催します。講演特集として、(1)自動車焼結部品の現状と今後の展開、(2)硬質材料の今後の発展のための技術・研究進展、(3)磁性材料・磁気デバイスにおける微細構造制御と機能発現、(4)粉末積層3D造形技術における課題と最先端研究の4テーマと企画セッションとして、(1)熱電変換材料-実用化へ向けてのステップ-<協賛：日本熱電学会>、(2)粉末、混合、成形、焼結等のシミュレーションの発展の2テーマが行われます。詳細につきましては、<https://confit.atlas.jp/jspm2018a>をご覧ください。

新潟県での開催は初めてとなりますが、会場は、空港からもJRの駅からもアクセスが良く、会員の皆様には比較のご参加頂きやすいのではないかと考えております。

会場となる朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターは、新潟のラウンドマークの一つです。31階の展望室は地上125mに位置し、東西南北すべてを見渡せます。新潟市中心部や信濃川、柳都大橋、萬代橋、新潟西港などを眼下に望め、遠くは佐渡島や粟島、弥彦山なども眺望できるようです。また夜間には日本海に浮かぶ漁火も眺望できるなど新潟市近郊の明暗に富んだ夜景を楽しめることから、2004年8月には新日本三大夜景・夜景100選に、2011年8月には日本夜景遺産に、それぞれ選定されています。展望台は入場無料、絶景を眺めながらお食事を楽しむこともできますので、是非足を運んでください。

冬の北陸は日本海からの風が強くとんより、というイメージもありますが、荒波に揉まれた海産物は非常に美味しく、日本酒は、新潟淡麗といわれすっきりとしております。食事出張先での楽しみの一つです。駅周辺を散策してください。新潟駅南口西通路にある「ほんしゅ館」には、90種以上の地酒を1杯100円で楽しめるコーナーもあります。好みの日本酒を見つけに行かれるのも楽しいのではないのでしょうか。

さて、新潟をぶら～り。

○新潟市観光（バスが便利）

「新潟市観光循環バス」は新潟駅を起点に、新潟市の中心市街地にある観光施設をぐるりと回るバス。まちめぐりをするときにおすすめの交通手段です。バスは「白山公園先回りコース」と、「朱鷺メッセ先回りコース」の2コース。ほぼ同じルートを走るため、途中ですれ違うこともあります。1日乗車券（500円）は、その当日は何度でも乗り降り自由です。さらに、新潟美術館やマリニピア日本海などの指定観光施設で1日乗車券を提示すると、料金が割引になる特典があります。この乗車券はバス車内でも購入可能です。

○燕三条（新潟駅から新幹線で12分、JR信越本線で約60分）

新潟の燕市・三条市は金属の町として日本でも有名な生産地です。モノづくりの町として栄えてきました。多くの職人文化を育み、現在でも世界に誇れる商品が数多くあります。決して安くはありませんが、本物のメイドインジャパンを見て知る事ができます。「燕市産業史料館」で歴史を学ぶのも楽しいです。

○村上市（新潟駅から特急「いなほ」で45分、JR白新線で約1時間20分）

村上市は、三面川の鮭（塩引鮭）、牛肉（村上牛）、北限の茶どころとして有名です。

村上の人たちは鮭をこよなく愛し、村上ならではの多彩な料理法で鮭を頭から尻尾まであますことなく味わい尽くします。その鮭料理の数は百を超え、鮭を愛する地元の人々の昔からの知恵と工夫が生きています。お店の軒先にかかる鮭は圧巻です。鮭の一人当たりの消費量では村上市は日本一を誇ります。

また、国の名勝天然記念物（県立自然公園）に指定されている「笹川流れ」は、全長11キロメートル、美しい海の代名詞といってもいい見事な景観を誇り、日本百景にも選定された県下有数の海岸景勝地です。笹川流れの笹川とは集落名で、この笹川より沖合いの岩場まで潮流が見られたことが名の由来とされています。観光汽船では、透明度の高い綺麗な海とカモメの餌付けもお楽しみいただけます。（吉田 泰子）